## 園長先生の子育てひろば

令和3年4月



## 新しい年度になりました

園長 山中 文

ご入園やご進級など、新たな節目を迎えられたご家庭も多いことと存じます。相変わらずのコロナ禍ですが、本園にも可愛らしい新入園児が大勢来てくれました。4クラス別々に入園式を行ったため、少しお待たせしたクラスもありましたが、式中に、にこっとしたお顔をしてみて、とか、怒ったときのお顔はどんなお顔?、悲しくて泣きそうなお顔はどうなるかな?とか問いかけますと、マスク越しでもとってもよくわかる、実にいろいろな表情を見せてくれました。にこっとした顔が幼稚園のそこここでたくさん見えるように、本園では新たな年度の教育をスタートいたします。

さて、園だよりでもお話ししたのですが、大阪府立淀川工業高校グリークラブが歌う「怒りのグルーブ~童謡編~」(嘉門達夫作詞・作曲)をご存知でしょうか。

この歌を小学校低学年の子どもと2歳の子どもが一緒に聞いていた時、面白いことがありました。低学年の子どもはケラケラと笑い出したのに、2歳児は泣き出したのです。 どうしてだと思われますか?

その歌詞は、こんなものです(抜粋しています)。

♪カラスなぜ鳴くの 何惚けたこと聞いとんねん

ふつう鳴くやろ 鳴かへん方が珍しいやろ

こらどじょう どんぐりが池にはまって大変やのに

一緒に遊んでる場合か 早う助けたれ

ある日森の中でクマさんが「お嬢さん お逃げなさい」

お前が言うな

ポケットの中のビスケット 叩いたら二つに増えたって

そら割れただけやろ ♪

小学生は、この歌に出てくる歌詞のもとになる歌(「七つの子」\*や、「どんぐりころころ」\*や「森のくまさん」\*、「ふしぎなポケット」\*)を幼児期に聞いたり歌ったりした経験があります。だから、♪カラスなぜ鳴くの カラスは山に…♪といった、元歌の歌詞がよく身についていて、この歌詞の笑いどころがわかったのです。でも、2歳児は、まだ元歌を歌ったり聞いたりした経験はあまりありません。この歌には、他に乱暴な歌詞も出てきます。迫力のある男性合唱だけに、怒っているようなイメージが怖かったに違

いありません。

こうしてみると、「笑える」ということにも「わかる」が関係していることがわかります。この歌の小学生と2歳児をみると、経験が「わかる」をつくってきていることは明確なのに、ともすると、幼児期にもかかわらず、まるで「この歌はこうなっているから、これが元歌と違って面白いのよ、わかりなさいね」というように、経験より先まわりして教え込んでしまうことがあるように思います。

幼児期は、むしろ「わかる」までの色々な経験を大事につくっていきたい時期です。 そのことが、つまりは自ら「笑う」ことができるような理解につながるからです。子ど もたちが日々の経験の中から五感で感じていることを、大人は先回りせず、そっと目で 追いかけていきたいものですね。

> 「七つの子」: 野口雨情作詞・本居長世作曲 「どんぐりころころ」: 青木存義作詞・梁田貞作曲

「森のくまさん」: 馬場祥弘作詞・作曲

「ふしぎなポケット」: まど・みちお作詞・渡辺茂作曲

